

おおやまみちこんじゃく

#9 大山道今昔

作者：金子勤（かねこ・つとむ 1929-）

刊行：昭和60年（1985）



解題

■ 内容

渡辺崋山は大山道を旅したときのことを「遊相日記」として残している。本書は、この日記を基に幕末当時の大山道沿道の風景と人物を再現し、昭和59年（1984）と対比、考察されている。

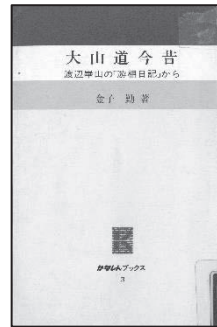
初めに崋山の生い立ちから弟子の高木梧庵を伴っての出立まで語られる。そこから旅の主たる目的が、崋山が近侍していた三宅友信の母、お銀様の消息をたずねることであるとわかる。

天保2年（1831）9月20日、崋山と梧庵は江戸を発つ。本書では大山道を12のルートに分けて紹介していく。出立して二日後、崋山と梧庵は小園村（綾瀬市）で貧しい農家の主婦となったお銀様に再会する。その後も西へと進み、厚木出発を最後に紀行は終わる。

崋山と梧庵の旅先での様子や、沿道の人々との交流が生き生きと描かれており、当時の様子が手に取るようにわかる。また、『大山道今昔』とあるように、様々な歴史を経て趣を変える大山道の、その経緯が詳細に記述されている。自然と人情豊かな大山道を何とか記録、温存したいという著者の思いから生まれた一冊である。

■ 作者

作者は金子勤。大正4年（1929）、神奈川県横浜市生まれ、早稲田大学卒業。関東地方各都県の地名の由来を研究。平成20年（2008）に『神奈川県



[K68/174]

[C3.3/カ林]

第1章 地誌・案内記

の地名』を刊行。長津田宿の歴史を活かしたまちづくり研究会のメンバーとして、長津田十景などを紹介した『長津田歴史探訪マップ』の編算に携わる。他に『東京23区の地名の由来』、『風車の回る異人館』などの著書がある。

参考文献

『厚木と游相日記』高瀬慎吾編著 平塚信用金庫厚木支店 1965 [K99.92/1]

『渡辺崋山：優しい旅びと』芳賀徹著 朝日新聞社 1986 (朝日選書)
[K99.92/5] [721.7/74]

『東京23区の地名の由来』金子勤著 幻冬舎ルネッサンス 2010
[291.36/402]

<複製本・影印本>

「游相日記」(『新編稀書複製会叢書第44巻』臨川書店 1991) [918.5/32/44]

「游相日記」(『渡辺崋山集 第5巻 影印 上』日本図書センター 1999)
[081.5/102/5]

<翻刻本>

「游相日記」(『崋山全集第2巻』崋山会 1915) [721.7/14/2]

「游相日記」(『日本庶民生活史料集成 第3巻』三一書房 1969) [380.8/8/3]

「游相日記」(『渡辺崋山集 第1巻 日記・紀行 上』日本図書センター 1999)
[081.5/102/1]

<注釈本>

『平成校注「游相日記」』涌田佑著 相模経済新聞社 2004 [K99.92/20]

※「本文」、「詳注」、「現代語訳」で構成